

2021年度 公開講座（オンライン）

# 経営学のススメ

～ 日常生活にも深く関わる経営学 ～

**視聴期間** 2021年12月11日（土）～ 25日（土） ※ 期間中いつでも視聴いただけます。

**配信方法** YouTubeを使用したオンデマンド配信

## 第1部 池田 公司（甲南大学 経営学部 教授）

### 「SDGsが会計を変える – 持続可能な企業成長と「統合報告」–」

2015年の国連サミットでSDGs（Sustainable Development Goals）、すなわち、2030年に向けて達成を目指す「持続可能な開発目標」が定められました。このSDGsは各種報道でも取り上げられており、私たちの社会生活に身近な存在になっています。

「会計」においても、英国のチャールズ皇太子が2004年にAccounting for Sustainability（A4S）を提唱し、現在の会計が気候変動などの社会的なリスクを考慮していないことが指摘されました。この2004年のA4Sが母体となって、2010年に「国際統合報告評議会」が英国のロンドンに設立され、2013年に「国際統合報告フレームワーク」が制定されました。

「統合報告」の背景には、SDGsの考え方があります。統合報告は、企業の短期的な利益を追求するのではなく、企業の中長期的な利益と持続可能な発展に役立つ情報をステークホルダー（利害関係者）に提供することを目的としています。

## 第2部 大塚 晴之（甲南大学 経営学部 教授）

### 「日本人の株式投資の実態 – 賢い資産運用とは –」

近年、銀行・証券会社・保険会社などの、いわゆる機関投資家は、株式市場における資産運用で高い収益率を獲得してきたが、日本人の多くはこの恩恵を受けていない。この理由は、日本人が資産を主に銀行預金などの貯蓄によって運用し、証券投資に消極的であったことが理由である。このこともあり、「貯蓄から投資へ」というスローガンで、日本人に対する資産形成態度の変更を促す試みがなされてきた。政府は、iDeCoやNISAなどの金融商品により、個人投資家を株式投資に誘う方策を後押ししているが、これが功を奏しているとは言えない現状である。本講演では、望ましい資産形成の在り方はどのようなものなのかについて、近年の研究成果を踏まえて提言を行う。

**申込方法** 以下連絡先までお問合せください。視聴用URLをご案内します。

※ 本公開講座の録音・録画、また複製配信・SNSへの投稿等は固く禁止しております。

甲南大学 ビジネス・イノベーション研究所

TEL 078-435-2754

E-mail [bi@adm.konan-u.ac.jp](mailto:bi@adm.konan-u.ac.jp)